



星野 晃司(ほしの こうじ)

小田急電鉄株式会社 代表取締役 取締役社長
昭和30年(1955年)生まれ、63歳
昭和53年小田急電鉄株式会社入社
旅客サービス部長などを歴任
平成15年執行役員、20年取締役就任
平成22年小田急バス株式会社(代)取締役社長
平成25年小田急電鉄株式会社常務取締役
平成27年専務取締役、29年4月より現職

開成町はオンとオフを充実できるまち

小田急電鉄株式会社取締役社長
星野 晃司

星野 昔からある環境を大切にしながら、新しい街をつくりしていくと、開成町のまちづくりに共感しています。府川 開成駅への急行停車の実現を契機に、開成町をもっと元気な町にしていきたいと考えています。

星野 鉄道は交通網の「幹」となるもので、急行停車が地域発展の一助になるものと考えています。

星野 また、開成駅周辺については、交通利便性の高まりによって宅地分譲が進み、商業施設や企業が増えるなど、総体的に大きなまちづくりが一層進むものと考えています。

星野 開成駅は、あじさい通りをはじめ、観光客を呼び込むイベントの充実にも工夫を凝らしていると感じます。府川 開成町内では、酒蔵が復活し、38年ぶりに日本酒の醸造が再開されたと伺っています。足柄地域の酒蔵なども、新たな観光資源になるのではないかと感じています。

星野 昨今の「働き方改革」で、通勤の利便性だけでなく、休日の余暇をいかに豊かに過ごせるかが、大きなポイントになっています。

府川 開成町は、近くに、箱根や富士山があり、湘南や伊豆などの海もあります。オンとオフを充実させることができることだと感じています。

星野 「田舎モダン」は非常にいいブランドコンセプトだと感じています。「田舎」の心地よい空気感と、「モダン」な暮らしの両者が融合し、自然豊かで、生活利便性が高いという印象を受けます。

府川 「田舎モダン」は、開成町の住みやすさと田舎の温かさといった両方の良さを表現しました。

星野 開成町は面積の小さな町なので、「町がひとつのお家族みたい」な温かさがあります。開成町は良い人が多いんですよ。

星野 当社もそうです(笑)

府川 開成町に移り住んだ方

星野 人口増加の背景としては、子育て支援や教育環境の充実に力を入れ、子育て世代を吸引していることもあるのではないかでしょうか。

府川 近年は、子育て支援や教育環境の充実に力を入れてきました。これらの施策の効果もあってか、昨年4月に設立された「みなみ自治会」は、会員の約9割が50歳以下で構成されるなど、若い世代の定住が進んでいます。

星野 子育て世代は、町が元気になるためには欠かすこと

から、「地域の人優しく受け入れてもらえた」という声をよく耳にします。

星野 人口増加の背景としては、子育て支援や教育環境の充実に力を入れ、子育て世代を吸引していることもあるのではないかでしょうか。

府川 近年は、子育て支援や教育環境の充実に力を入れてきました。これらの施策の効果もあってか、昨年4月に設立された「みなみ自治会」は、会員の約9割が50歳以下で構成されるなど、若い世代の定住が進んでいます。



もっと、元気なまちへ



左から、星野社長、あじさいちゃん、府川町長

星野 当社でも酒蔵見学を中心としたツアーワークを企画するなど、地域の魅力を積極的に発信しています。今後も鉄道事業者として、沿線地域の観光活性化に協力していきたいと考えています。

府川 今後も更なる開成町の発展に向けて、御社と開成町の連携・協力体制の深化にご尽力いただければと思います。

星野 本日は、貴重なお話をありがとうございました。



開成町の魅力

選んで頂くためには、良好な住宅地などのハード面の整備、子育て支援や教育といったソフト面の充実に加えて、町の魅力を戦略的に発信することが重要だと考えています。

開成町では、平成27年の町制施行60周年を機に「田舎モダン」をコンセプトとする町のもののブランド化に取り組んできました。

星野 社長から見た開成町の魅力をお聞かせください。

府川 「田舎モダン」は非常にいいブランドコンセプトだと感じています。「田舎」の心地よい空気感と、「モダン」な暮らしの両者が融合し、自然豊かで、生活利便性が高いという印象を受けます。

星野 「田舎モダン」は、開成町の住みやすさと田舎の温かさといった両方の良さを表現しました。

星野 「田舎モダン」は非常にいいブランドコンセプトだと感じています。「田舎」の心地よい空気感と、「モダン」な暮らしの両者が融合し、自然豊かで、生活利便性が高いという印象を受けます。

星野 「田舎モダン」は、開成町の住みやすさと田舎の温かさといった両方の良さ